

小笠原で暮らすイルカたち～2022年のニューフェイス～

ミナミハンドウイルカの個体識別調査は、約20年にわたり毎年継続して行われているわけですが、これまで調査の目をかいくぐってきたのか、はたまたどこかに潜んでいたのか、父島列島周辺での調査でも、「あれっ？この子は一体だれ？」という個体がたまに確認されます。また、母島列島や髯島列島周辺海域（特に媒島から北側）においては、調査回数が少ないため、見慣れない個体に出会うこともしばしば。そんな中、今年の調査でもニューフェイス（と思われる個体）が登場しましたので、ご紹介します。

≪#389 ニックネーム ルート…性別不明

左の体側に「√（ルート）」型の白斑があるのが特徴。2022年7月16日の父島周辺での調査で一度出会ったきりで、性別も未確認です。7月の調査の際には、嫁島海域でも見かけるメンバーと一緒に群れにいました。これまで髯島列島周辺のみを利用していたのでしょうか？



WANTED

～8月に髯島列島の媒島周辺で出会った個体たち～
調査の都合上、船上から背ビレ写真のみを撮影。他の手がかりが一切ないため、背ビレ写真のみでの識別の結果、一致個体はいませんでした。背ビレの欠損が増えた既識別個体の可能性もあるため、同一と思われる個体の水中写真をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひともお知らせいただければと思います！

